

2011年6月20日

AMC[®]（多層カーボンナノチューブ）を事業化

宇部興産株式会社

宇部興産株式会社（社長：竹下道夫）は、AMC[®]（Artificial Micro Carbon：多層カーボンナノチューブ）を事業化する。現在、宇部ケミカル工場（山口県宇部市）内にAMC[®]製造設備（生産能力20t/年）の建設を進めており、2011年10月に稼働を開始する予定。

宇部興産は、COガスを原料として、DMC（炭酸ジメチル）などファインケミカル（C1ケミカル）製品を製造しているが、2005年より同じCOガスを原料としてAMC[®]の研究開発に着手し、ポリマー・電池分野を中心に試作を重ねてきた。

AMC[®]は、独自開発の触媒と製法により、繊維構造の中に釣鐘構造（節構造）を持たせ、分散性及び導電性に最適な性能を実現している。また、飛散しにくくハンドリング性が高い点が特徴で、生産効率改善への貢献も期待できる。パウダー・溶媒・ペレットの3つの形状で提供する予定。

宇部興産ではリチウムイオン電池用電解液・セパレーターを生産してきた技術・経験を活かし、このAMC[®]を電池分野における新しい機能材料として、リチウムイオン電池の正極・負極の導電助剤としての需要拡大を見込んでいる。

また、AMC[®]は、ナイロン、ABSやポリカーボネートなど熱可塑性樹脂に配合することで導電性を発現させ、樹脂に帯電・静電防止機能を付与することができるので、半導体搬送容器、OA機器部材や静電気除去シートなど向けにも拡販を検討している。

宇部興産は、このAMC[®]事業により、2015年度に50～100億円の売上を計画している。

以上

【参考：AMC[®]の写真】

